

2019 年新年のご挨拶

9 条地球憲章の会代表 堀尾輝久

昨年は南北会談、米朝会談とアジアの平和への大きな前進が感じられました。しかし米中の緊張は高まり、安倍政権の改憲への執念は 2020 年へ向けて、樂觀を許さないものがあります。集団的自衛権を認めた安保法制のもと、防衛予算の大幅な拡大と高価な米国製武器の「爆買い」は憲法と現実の乖離を拡大し、憲法を死に体にするに他なりません。それは緊張と抑止力を口実に 9 条の条文改悪への梃子を強める意図からでもありましょう。

私たちは安倍改憲を阻止するために、総がかり行動実行委員会の運動と連帯して活動するとともに、東北アジアの非核化を含む平和構築に取り組みねばなりません。そこでも 9 条を持つ日本の役割は重要です。憲法を守るためにも、憲法の理念を深め、国際的に広めていくことが必要です。世界とアジアの平和なくして、日本の平和はありえないのです。9 条の理念で「地球平和憲章」を創ろうという国際的市民運動の根拠もそこにあるのです。そして 9 条は世界の宝だという外国の知識人や市民も増えているのです。

昨一年は、非戦・非武装・非核・非暴力・平和への権利と文化の視点を持つ「地球平和憲章」の内容をどう作るかと言う課題にワーキンググループで取り組むとともに、それぞれの項目と関わる研究会や映画上映会を重ね、コスタリカの経験や韓国の市民運動からも学んできました。現代戦争の主な加害者でもあり犠牲者でもある、米国の Veterans For Peace に結集した多くの退役軍人たちの平和への切実な願いは、9 条の理念に直結するものだと学び合いました。

会の趣意書の外国語訳も英・仏・独・スペイン・ロシア、そして中・韓・ベトナム語へと広がり、アラビア語も準備中です。簡潔な呼びかけ文（和・英）もでき、国内の呼びかけ人と賛同者は千名に近づき、外国からの賛同者も 70 名を超えています。同じ思いをもつ団体やグループとの情報交換や共同の活動も増えてきています。会の HP も一新しました。

今年も研究会を重ねるとともに、5月の種々の憲法集会に合わせて会の研究総会を開き、日本からの「地球平和憲章」案、少なくともその素案を提起して検討する予定です。思いを同じくする世界の各地域からの「地球平和憲章」づくりの、一つのモデルになればと願います。今年の大きな目標のひとつは、そうした活動で連帯出来る世界各地域や個人とのつながりを強めることです。

会の発展は、グローバルな視点での内外の平和を愛する皆さまのお力、それぞれのイニシアチブを活かすことにかかっています。

皆さまと共に、頑固で柔軟でよりいっそう活達な会にしたいと思いますので、本年もどうぞよろしくお願ひします。